

家族支援が希薄な知的障害を有する患者へのMSW支援

～事例を通して～

衆和会 長崎腎病院

○林田 めぐみ、藤原 久子、小松 利恵子、原 健二、藤原 靖子、原田 孝司、船越 哲

【はじめに】

知的障害を有する患者の透析導入は、患者自身の病識や理解力が低いため、良好な外来透析通院を維持することが困難な場合が多い。今回は家族支援が希薄な患者で、透析導入後に知的障害ゆえの周辺問題が加わったことで生活や通院に支障をきたし、MSWが支援を行った自験例を報告し、考察する。

【症例】

①母子で知的障害を有し生活困窮に陥った患者の支援。②多発性脳梗塞により通院困難となった患者の支援。③知的障害ゆえ、導入期の各種申請ができていなかった患者の支援 について報告する。

【まとめ】

知的障害を有する患者とその家族の支援に関しては、透析導入時点での詳細な障害程度の把握と支援体制作りが重要である。それにより、患者にとって最良の社会資源の提供と生活の質の確保および通院継続が可能となる。特に家族支援が得られない状況下では、ソーシャルサポート（医療・行政・福祉施設）間の情報の共有と意識・方向性の統一が、治療やケアにより良い形で反映されると思われる。